

肥育豚への飼料用米給与技術の開発

目的と特徴

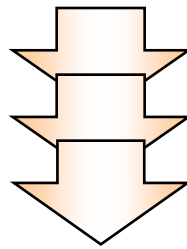
- ・飼料用米の多給技術を開発するため、限界給与水準を明らかにしました。
- ・飼料用米の多給による特徴ある豚肉質生産技術を開発するため、肥育豚の肉質・脂質を調査した結果、脂肪酸組成に影響することが確認されました。

玄米

以前までの給与水準

飼料用米の生産・給与技術マニュアル第1版より

粳米

後期のみ
50%後期のみ
15%

現在の限界給与水準

前～後期 50%
後期のみ 75%

前～後期 30%



75~100%



40%



輸入穀類（トウモロコシ）の代替可能割合

飼料用米（玄米・粳米）の多給により

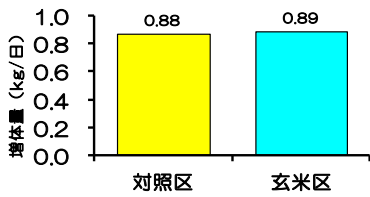
特徴ある豚肉生産の可能性が示唆されました
皮下脂肪内層の脂肪酸組成に変化あり

成果

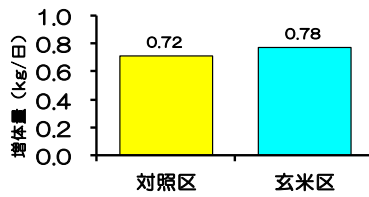
トウモロコシ主体飼料給与時と比較して、

- ・飼料用米の多給は発育成績や枝肉成績に影響しないことが確認されました。
- ・飼料用米の多給は皮下脂肪内層のオレイン酸の割合を高め、リノール酸の割合を低くすることが確認されました。

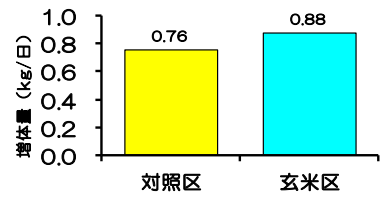
飼料用米多給時の日増体量



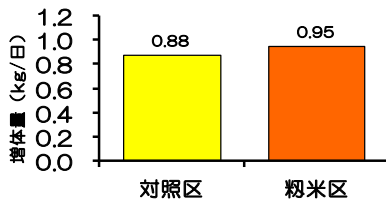
LWD三元交雑種
 対照区 トウモロコシ (前期70%・後期75%配合)
 玄米区 粉碎玄米 (前期・後期とも52.5%配合)



中ヨークシャー種
 対照区 トウモロコシ (後期70%配合)
 玄米区 粉碎玄米 (後期75%配合)



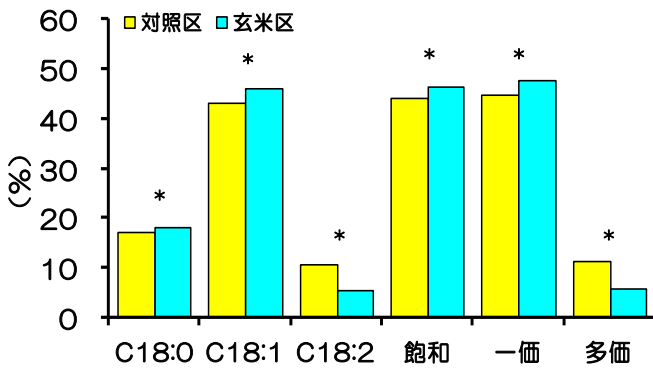
パークシャー種
 対照区 トウモロコシ (後期30%配合)
 玄米区 粉碎玄米 (後期75%配合)



LWD三元交雑種
 対照区 トウモロコシ (前期72%・後期79%配合)
 粳米区 粉碎粳米 (前期・後期とも30%配合)

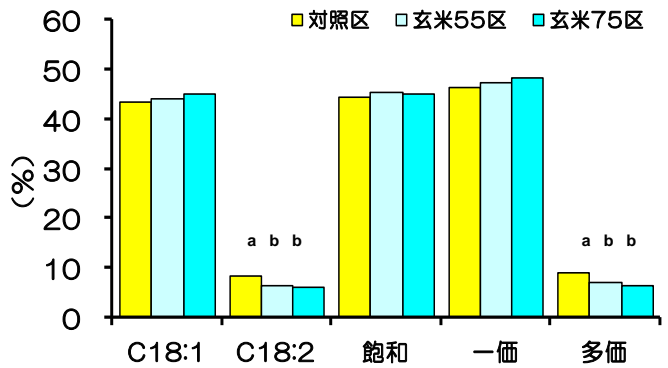
飼料用米多給時の皮下脂肪内層の脂肪酸組成

*: P<0.05



LWD三元交雑種
 対照区 トウモロコシ (前期70%・後期75%配合)
 玄米区 粉碎玄米 (前期・後期とも52.5%配合)

ab: P<0.05



パークシャー種
 対照区 トウモロコシ (後期30%配合)
 玄米55区 粉碎玄米 (後期55%配合)
 玄米75区 粉碎玄米 (後期75%配合)

対象作物・家畜、普及対象

- ・飼料用米、豚（肥育豚）、全国

対象農家

- ・養豚農家

必要な道具

- ・飼料用米の粉碎機器

その他

- ・飼料用米の粉碎粒度に留意してください。粳米の粉碎粒度が粗くなるに伴い、日増体量が低くなる結果が出ています。